

遊ぶ

はじめに 4

Talk 語り合ひを通して 7

- ◆ 多義性をかかえた場を遊ぶ —— 松岡正剛×中村桂子 10

- ◆ 短歌と科学、定型の中に生まれる遊び —— 永田和宏×中村桂子 34

- ◆ 心ゆくらむ生き方を追い求めて —— 阿形清和×中村桂子 62

- ◆ 数学の眼で人間のものの見方を解く —— 杉原厚吉×中村桂子 34

Research 研究を通して 113

個を支える遊び

- ◆ ロバスト性を支えるしくみ —— 森浩穎 117

- ◆ ハエの消化管から見る左右非対称な形づくり —— 前田礼男 123

- ◆ 小鳥がさえずるとき脳内では何が起っている? —— 和多和宏 136

世代をつなぐ遊び

- ◆ 味覚受容体遺伝子がむすぶ化合物と産卵行動 —— 尾崎克久 139

- ◆ 被子植物の繁栄を支える重複受精の瞬間を見る —— 東山哲也 146

遊びから展開する進化

- ◆ カイメンの幹細胞から見る多細胞化の始まり —— 船山典子 154

- ◆ アナログかデジタルか? 滑らかな動きを生む進化 —— 西野敦雄 161

- ◆ 手足の形づくりに見る普遍と多様 —— 田村宏治 168

Scientist library 人を通じて 175

- ◆ 自然免疫の点を線につなぐ —— 審良静男 178

- ◆ 統計学から進化と多様性の森に分け入って —— 長谷川政美 198

- ◆ シロイスナズナで花開いた分子遺伝学 —— 岡田清孝 222

- ◆ 初登頂の精神で心の進化を見つめる —— 松沢哲郎 246

あとがき 271

生命誌ジャーナル掲載号一覧 274

はじめに

二〇一一年度のテーマを「遊ぶ」ときめたのは、三月末のことでした。十一日にマグニチュード九・〇という未曾有の大地震とそれによる津波、そして原子力発電所の事故という災害があつた直後です。ここでこの言葉を選んでよいのだろうか。かなり悩みました。

生命誌は、生命という切り口で自然・人間について考える知であり、「生きている」という実感を持つことのできる動詞を通して知を組み立てていこうとしています。これまで取りあげてきた「愛づる」「語る」「観る」「関わる」「生る」「続く」「めぐる」「編む」は、どれも生きものらしさを知る研究を探し出し、生きることを大切にしている知の探検者と出会う場を生み出してくれました。

その中で、自ずと「遊ぶ」という言葉が浮かび上がってきたのです。以前は、遺伝子といえば、それが決定的に生きたのです。

体内の現象を決めるというイメージがありました。ですから、細胞内で明らかに重要なはたらきをしている遺伝子をはたらかないようにして、バクテリアやマウスが平気で生きていることがあるとわかつた時は、皆驚きました。でも、大切なはたらきであればあるほど、バイパスを作つておくはずです。そのような「遊び」があるからこそ生きものは柔軟に、しかも強く生きていけるのです。

災害からの立ち直りは、單なる復興でなく、生きもののらしい柔らかくて強い社会を作りたいという思いをこめて「遊ぶ」にしよう。そう決めました。

ここで、いつものように辞書を見ますと、まず「日常的な生活から心身を解放し、別天地に身をゆだねる」とあります。神事に端を発し、それに伴う音楽、舞踊や遊学を含むとも。別天地に身をゆだねるところまでは広がれなくとも、思いきり大らかに考えようと思います。辞書は細かく①かぐらをする。転じて音楽を奏する。②楽しいと思うことをして心を慰める。③狩をする。野山を気楽に歩きまわる。遠出をして風景を楽しむ。④子どもや魚鳥などが無心に





動きまわる。⑤他の土地に行き風景を楽しむ。学問のため
に他所に行く。⑥生業をもたずぶらぶら暮らす。⑦金、土
地、道具などが利用されないでいる。⑧酒やばくちにふけ
る。⑨もてあそぶ。とさまざまな側面を教えてくれます。
大らかさの裏には、大事なものをうまく利用できず、ぶ
らぶらして、ついにはばくちにふける暮らしに落ちていく
危険性があるわけです。生きているということは、善か悪
かをすっぱり分けることができない複雑なものであり、そ
れをすべて抱えこんでこそダイナミズムなのだと改めて
思いました。生きものが見せるダイナミズムを各ページか
ら読みとってください。

松岡正剛さんが、「遊」という文字は出かけるという意
味で、しんによる中の「方」は旗、「子」と合わせて旗竿
をもつ人の形を表わす。旗をかけて向こうへ出かけてい
き、そこから帰ってくると道ができる。「ここには動きがあ
る。」と教えてくださいました。どんどん出かけて行こう、
そして新しい道を作っていくかと思っています。表紙を見
てください。遊んで道を作つてますでしょ。

